



学校だより

ひびき 10月号

令和2年9月30日

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

児童の安全確保と登校班

校長 大塩 啓介

朝夕は涼しく過ごせるようになり、秋が感じられるようになりました。

また、日頃より本校の児童の安全確保にご協力いただき、ありがとうございます。

本校では、私が獅子ヶ谷小の教員だった時にはすでに登校班がありました。地区班が組織され、今と同じように児童が登校していました。当時は男子と女子別々に決まった帽子があり、それをかぶって登校していました。本校に通っていたことのある保護者の方にはご記憶があるのではと思います。

登校班は、1年生から6年生までの縦割り組織になっています。また、それは保護者の方のご協力があって初めて成り立ちます。近隣の児童の顔と名前がわかり、非常時にはとても役に立つ組織です。また、集団での登校は、朝の通勤のドライバーからは視覚的にもとらえやすく、集団で歩く児童の姿を見て運転に注意を払うようになります。

集団登校は良い面ばかりではありません。人間関係が悪くなると、その集団では通いづらくなり、場合によってははじめにつながることもあります。また、旗振りも含め、保護者の方にはご負担をおかけすることになります。そうしたところまで気を配りながら運営されている校外委員や地区委員、当番の皆様、新型コロナウイルスの感染防止のお声掛けや、様々なトラブルの対応も含め、本当にありがとうございます。

登校班のある学校では、こうした問題は必ず存在し、おそらく本校でも集団登校を開始したころから、そうした問題は出ていたと想像します。しかし、ここまで続けてきたのは、児童の安全確保には代えられないという思いが、保護者の皆様の中にあつたからだと思います。また、保護者の方の負担も、もし登校班がなければ、保護者お一人お一人がご自分のお子さんの安全確保をしなければならないところを、地域の保護者の皆さんが分担して交替で行うことで、安全確保にかかる負担を減らしていたのだと思います。特に、児童が一年生時、保護者の方は送り出すときの不安が大きく減ったのではないかと思います。登校班がない学校では、入学時に保護者から「登校班はないのですか」というお問い合わせがよくあります。

保護者の皆様の中には様々なご意見や思いがあることは重々承知しているところです。また、登校班の児童の人間関係にも配慮しながらの運営等、保護者の方のご負担も大きいと思います。しかし、「獅子ヶ谷小学校」の保護者の皆様がこれまで脈々と続けてこられた登校班への思いと、児童の安全確保への願いについては、これからも受け継いでいきたいと思っています。保護者の皆様のご理解、ご協力の程、お願い申し上げます。